

院長からのメッセージ

院長 石黒英昭

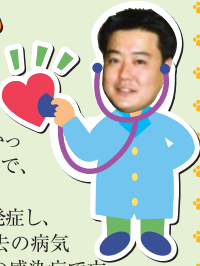
今年の冬は例年になく暖かく、とても過ごしやすかったですね。この冬はノミ・マダニが寄生しての皮膚病で、来院されるワンちゃん、ネコちゃんもいました。

昨年の上旬には、海外で犬に咬まれ、帰国後狂犬病を発症し、死亡したというニュースもありました。狂犬病は過去の病気と見られがちですが、世界では多くの人が狂犬病の感染症で亡くなっています。海外に行く場合は、動物には気をつけて下さいね。

狂犬病も含めて、フィラリア、ノミ・マダニの予防の季節になりました。ワンちゃん、ネコちゃんの事で心配事がありましたら、遠慮なく聞いて下さい。診察時間に十分なお話ができないようなら、診察時間外で時間を作っていききたいと思っておりますので相談して下さい。

ニュースレターも今回で10号。動物医療も日々進歩しています。

少しでも情報をお知らせできるように今後も作っていききたいと思っていますので、よろしくお祈りいたしますね。



What
動物の病気

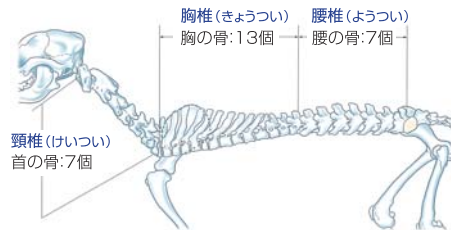
椎間板ヘルニア

ニュースレターの創刊号で「椎間板ヘルニア」のお話を簡単にしました。皆さんもご存じかとは思いますが、この病気になりやすい代表的な犬種は、M.ダックスなどのダックス系です。当院でもM.ダックスは多く来院されています。そして、この病気です来院するワンちゃんが年々増えているのが現状です。ここで、少し詳しく「椎間板ヘルニア」についてお話ししますね。



皆さん、お家のワンちゃんの背骨や首の骨を触ってみましょう。ひとつひとつの骨の間に隙間がありますね。ここが骨のつなぎ目となりますが、骨・骨・骨...だけあったら、骨同士がこすれて痛いですよね。実は、骨同士がこすれないように骨の間には、クッションがあるのです。このクッションの働きをしているのが「椎間板」なのです。

そして、このクッションがおかしくなってしまう病気が「椎間板ヘルニア」なのです。私たちもそうですが、背骨・首の骨・腰の骨に太い神経(脊髄)が走っています。その神経は、足を動かす神経だったり、熱いものを触ってサッと手を引いてしまう神経だったり、たくさんの役割を持った神経が枝分かれしていきます。



そこでこの病気を私の好きな“大福”を使って説明しますね。大福がクッション(椎間板)であるとします。

ギュッと握り潰してみましょう。

中味のアンコあるいは皮ごと押し出されると思います。

クッションに強い衝撃を受けたりすると、この大福のように中身が飛び出したり、クッションごと飛び出したりします。また、年を取ると大福がカピカピになってしまいちょっとした衝撃で飛び出しやすくなります。

そして飛び出した所には、神経が走っているのです。

神経が圧迫するとそこから先の神経に命令が伝わらなくなってしまいます。

「足を動かせ」と命令しても圧迫された神経の先にはこの命令が届いてくれません。

同時に、神経が圧迫されているのでとても強い痛みがあります。



症状

- 背中を触ったり、抱こうとすると痛がる。
- ソファー、階段への昇り降りを嫌がる。
- 歩くとき、足がふらついたりのろのろ歩きになる。
- 前肢、後肢がうごかない。

検査

脊髄を圧迫している椎間板ヘルニアの部位や状態を知るために、神経学的検査・レントゲン検査を行います。状態によっては、CT検査を必要とすることもあり、この検査は他院に紹介する形をとっています。

治療

動きを控えるために、ケージレスト(安静)をしながら痛みや炎症を抑える薬剤を投与する内科的療法。

脊髄造影レントゲン検査で幹部の部位と状態を正確に見極め外科的手術を行う。

ともに回復する兆しが見られても、神経の麻痺が回復するまではリハビリがとても重要となります。当院では飼主さんに、歩行が不自由になっている前肢あるいは後肢を支える補助バンドを作ってもらい、歩くという機能を回復するためにがんばってもらっています。

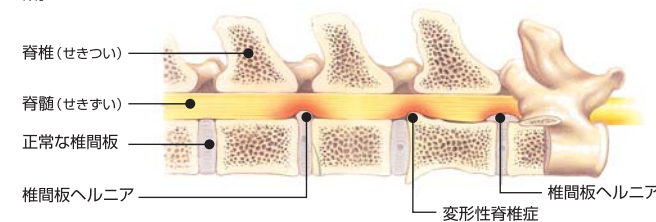
予防

早期発見を心がけて、肥満にならないように食事管理をしましょう。

変形性脊椎症(へんけいせいせきつししょう)

「椎間板ヘルニア」と似た症状で、背骨(脊椎)の骨自体が変型して、脊髄神経を圧迫する病気があります。これを「変形性脊椎症」といいます。

これは、老齢のワンちゃんに多くみられる病気で、老化現象と考えられています。症状はヘルニアと同様で、歩行を嫌がったり、痛みが生じます。



春は、フィラリア・ノミ・マダニ 予防の季節です。

ワンちゃん

フィラリア予防には、例年どおり錠剤タイプのもの、お肉の固まりチュアブルタイプのものを用意しています。ノミ、マダニの予防には、フロントラインスポット(首筋に液体をつける)を用意しています。



ネコちゃん

フィラリア、ノミ、ミミヒゼンダニ(耳ダニ)、回虫の4つが予防できるレボリューションという首筋につける液体を用意しています。(ワンちゃんにも同様のお薬はありますが、フィラリアの感受性が高いことで確実に服用させる飲み薬にしています。)ノミ、マダニの予防だけでよいという方は、従来どおりフロントラインスポットも用意していますので、ご相談下さい。



フェレット

フィラリア予防には、チュアブルタイプのもの、粉薬を用意しています。

皮膚病のケアにはシャンプーが重要です。

梅雨時から夏にかけて皮膚病が増える時期です。日頃からケアしてあげればその発生率を抑える事ができます。シャンプーは皮膚病予防の第一歩です。

おすすめシャンプー



オーツシャンプー 普段のお手入れに最適。皮膚病の時に。

<シャンプーの注意点>

- シャンプーをつけたら、すぐに洗い流さず5~10分おいて下さい。左記のシャンプーは皮膚の状態を良くするお薬が入っているので、おくことによりお薬が吸収していきます。
- タオルでよく拭きとり十分に乾かして下さい。毛の根元まで乾かさないと蒸れてしまい、悪い菌が繁殖して皮膚病を引き起こしてしまいます。